

オーストラリアとニュージーランドの児童書選書にかかわる調査報告書

2017 年 3 月

報告者：浦和大学こども学部准教授（執筆当時）

今田 由香

1. オーストラリアの児童書、その個性と出版の状況

オーストラリアは、日本の約 20 倍にもなる 769 万平方キロメートル¹の国土からなり、そこに約 2,413 万人²の多様な民族が暮らす。美しい海や川と山々、個性豊かな動植物、そして人間が、それぞれの存在を尊重しながら共生する国である。

今回の選書に際し、オーストラリアの児童書の個性を知り、児童書を取り巻く状況を確認したいと願い、文献調査だけではなくフィールドワークも実施した。2016 年 7 月 29 日から 8 月 4 日までメルボルン（Melbourne）に渡り、児童文学作家、翻訳家であり、メルボルンでこども文庫を主催する渡辺鉄太氏の協力を得て、図書館や書店を視察した。また、絵本原画の画廊「ブック・イラストレイテッド（Book Illustrated）」を訪問して、オーストラリアの絵本出版の振興に尽力する、経営者のアン・ハドン（Ann Haddon）氏とアン・ジェイムズ（Ann James）氏にオーストラリアの児童書とその出版状況について教えていただいた³。

さらに、英語を母語としない人々が多く暮らす、メルボルン郊外の都市、ダンデノン（City of Greater Dandenong）で、多文化・多民族に対するサービスを行う公立図書館を訪れ、司書のフランシス・マクケニー（Frances McKechnie）氏に、地域住民の福祉の実現を支える公立図書館の現状について話をうかがった⁴。

これらの調査から見てきたオーストラリアの児童書とその出版の状況には、下記のような特徴があった。

- 1) オーストラリア自生の動植物をテーマにした作品が人々に親しまれている
- 2) アボリジナルの文化を反映した作品に存在感がある
- 3) 歴史や現実を踏まえた作品が充実している（ヤング・アダルト文学、知識の絵本など）
- 4) 文字のない絵本の優れた作り手が多い
- 5) ジュニア向けの読み物の隆盛
- 6) ユーモアあふれる作品が人気である

選書と品ぞろえの確かさで国内外の読者および児童書関係者からの厚い信頼を寄せられている、メルボルンの児童書専門店「ザ リトル ブックルーム（The Little Bookroom）」⁵で、オーストラリアの児童書の個性とは何かと聞いたところ、動物が多く登場する点にあるとの答えが返ってきた。オーストラリアには、コアラ、カンガルー、カモノハシ、ポッサム、

ウォンバット、ディンゴ、エミューなどが生息する。これらの動物たちが住む「ブッシュ」と呼ばれる森や林⁶⁾は、かつてこの地に入植した白人にとっては異質な世界であったのだろう。オーストラリアの児童書の始まりをどこに定めるかは諸説あるが、ブッシュのイメージを明るいものに転換した作品が現れたとき、真の意味で、オーストラリア独自の児童文学が誕生したとも言えるのではないか。時代を切り開いた作品に、1899 年出版のペドレー夫人 (Ethel Pedley, 1859-1898) 作『ドットとカンガルー (Dot and the kangaroo)』、1918 年出版のノーマン・リンゼイ (Norman Lindsay, 1879-1969) 作『魔法のプディング (The magic pudding)』、メイ・ギブス (May Gibbs, 1877-1969) 作『スナグルポットとカドルパイ (Snugglepote and Cuddlepate)』の 3 作がある。

『ドットとカンガルー』では、ブッシュで迷子になった女の子がカンガルーと出会い、差し出された不思議な実を食べたところ、ブッシュの動物たちの言葉がわかるようになる。『魔法のプディング』では、食べても減らない魔法のプディングをめぐる、コアラがウォンバットらと攻防を繰り返す。同じ年に出版された『スナグルポットとカドルパイ』では、ユーカリの木の実の子どもたちが、人間という生き物を見たいと家を出て、ブッシュに迷い込む。

現在も動物が登場する作品の人気は根強い。メモ・フォックス (Mem Fox, 1946-) とジュリー・ヴィヴァス (Julie Vivas, 1947-) によって 1983 年に出版された絵本『ポッサム・マジック (Possum magic)』の主役はポッサムである。森の魔法使い、ポッサムのポスおばあちゃんが孫にかけた魔法の解き方を忘れてしまい、国内を旅して解決の鍵を探す。

また、先住民族アボリジナルの神話や伝説から生まれた児童書も独自の存在感を放つ。聞き手の想像力を掻き立てる物語を語り継いできたアボリジナルから、それらを再話して絵本にするアーティストも生まれた。なかでも、ディック・ラフジー (Dick Roughsey, 1920-1985) の絵本には生命力がみなぎる。

歴史や現実を踏まえた作品の充実ぶりは、1946 年創設の、文学性と芸術性に優れた児童書に贈られるオーストラリア児童図書賞 (Children's Book Council of Australia Book of the Year Awards)⁷⁾の受賞作を見れば明らかである。パトリシア・ライトソン (Patricia Wrightson, 1921-2010)、ジャッキー・フレンチ (Jackie French, 1953-)、ソーニャ・ハートネット (Sonya Hartnett, 1968-) などの優れた作家たちは、表現が難しいと思われるテーマ、民族の歴史や自然の脅威、思春期の子どもを取り巻く過酷な現実をも果敢に作品に取り入れてきた。また、ノンフィクションの質の高い読み物や絵本も豊富である。さらに近年は、文字のない絵本で、ジャン・オーメロッド (Jan Ormerod, 1946-2013)、ジーニー・ベイカー (Jeannie Baker, 1950-)、ショーン・タン (Shaun Tan, 1974-) らが注目を集めている。

これらの傾向は、国外からでもうかがい知れるが、実際に現地の書店に足を運んで驚くのは、ジュニア向けの読み物の多さと笑いを誘う本の需要の高さである。アンディ・グリフィス (Andy Griffiths, 1961-) の「ツリーハウスシリーズ (The Treehouse Series)」やリー・

ホップズ (Leigh Hobbs, 1953-) の「ミスターチキンシリーズ (Mr Chicken Series)」の人氣には目を見張るものがある。ホップズは、オーストラリア児童図書連盟 (Australian Children's Literature Alliance) ⁸が選ぶ、「チルドレンズ・ローリエット (Children's Laureate)」⁹にも就任し、学校や保育の場に出向いて、本を読むこと、楽しむこと、創作することの意義を伝える活動を行っている。

ここまで、オーストラリアの児童書の個性を概観してきたが、それらの楽しみ方は、当然ながら人それぞれである。例えば、今回訪問したダンデノン図書館 (Dandenong Library) は、多民族多言語サービスに力をいれていた。民族の割合によって、外国語の図書購入費が配分されるので、英語以外の本、この地域に住む人々の母語による児童書が並んでいた。

オーストラリアでは、児童図書評議会 (The Children's Book Council of Australia) ¹⁰だけではなく、有名書店も児童図書賞を設けており ¹¹、児童書の出版と読書を盛り上げている。しかし、その一方で、受賞作か否かに関わらず子どもたちが、それぞれのニーズと興味に応じた本を選んで、思い思いのスタイルで読書する姿があり、大人たちもそれを応援している。図書館でも書店でも、新作や人気作よりも、その場所に集う子どもが必要とする本を揃えようと努める姿勢が見られた。そして、そのことを作り手たちの多くも歓迎しているようである。

学校教育においても児童文学の活用が盛んであり、教員が授業をどのように進めていくかのアイデアを記した学習指導案が、教育関連機関や出版社のウェブサイトで公表されている ¹²。保育や教育の場に作家や画家たちが出向いて活動する「オーサー・ビジット (author visit)」¹³など、子どもたちと関わる機会を歓迎する作り手も多数いる。さらに、作家や俳優などによる絵本の読み聞かせの動画を配信する、「ストーリー・ボックス・ライブラリー (Story Box Library)」¹⁴などの試みも始まり、印刷した本をさまざまなメディアや活動を通じて楽しむ機会が子どもたちに提供されている。

2. ニュージーランドの児童書、その個性と出版の状況

ニュージーランドは、オーストラリアに比べると小さな国である。国土は日本の約 4 分の 3 にあたる 27 万平方キロメートルあまり ¹⁵で、そこに約 424 万人 (2013 年時点) ¹⁶の人々が住む。オーストラリアと同じく、美しい自然に恵まれており、環境の豊かさは児童書にも反映されているが、ニュージーランドの児童書を取り巻く状況のなかで、次の 2 つを特筆したい。

- 1) 先住民マオリとその文化への関心が高い
- 2) 子どもの読書教育に力を入れている

ニュージーランドの先住民マオリの人口は、14%にも上る ¹⁷。公用語も、英語に加えて、マオリ語と手話の 3 種がある ¹⁸。マオリ語による幼児教育機関が存在し、マオリ語と

英語で出版される児童書もある。オーストラリアよりもニュージーランドの方が、先住民の文化や言語が人々にとって身近であり、生活のなかに生きている。

マオリに伝承される物語や絵画技法の継承だけでなく、どこの部族の出身であるかをアピールして創作活動を行うアーティストも多くおり、マオリであることを自らの個性としている。野間国際絵本原画コンクール¹⁹第 4 回大賞受賞作『ミスター・フォックス (Mr Fox)』の作者、ガビン・ビショップ (Gavin Bishop, 1946-) もそのひとりで、マオリの神話や伝説を、伝統の技法で描いた作品を発表している。

また、ニュージーランドは、早くから、子どもの物語経験の大切さを伝えて来た国でもある。ドロシー・バトラー (Dorothy Butler, 1925-2015) が、複雑で重い障がいをもって生まれた孫娘クシュラの成長と、読書の記録をもとに執筆した『クシュラの奇跡 (Cushla and her books)』は、日本でも翻訳出版されて、現在も、子どもの発達に関心を抱く学生や大人たちに読まれ続けている。

ニュージーランドの教育は、子どもの個性を尊重して行われる。副読本として使用される「スクール・ジャーナル (*The School Journal*)」²⁰は、種類、内容ともに豊富で、子どもたちはそれぞれの関心と学習レベルに合わせた読書を楽しむことができる。この冊子は、作家や画家の登竜門にもなっており、マーガレット・マーヒー (Margaret Mahy, 1936-2012) やジョイ・カウリー (Joy Cowley, 1936-) などの優れたストーリー・テラーを輩出してきた。

マーヒーは、クライストチャーチ市図書館 (Christchurch City Libraries) で児童書担当として活躍したという経歴の持ち主である。絵本もヤング・アダルト文学も手掛ける作家、ジョイ・カウリーは、本を読むことが苦手な子どものために創作を始め、現在も子どもに読書の楽しみを伝えるための活動を積極的に行っている。ニュージーランドとオーストラリア両国で活躍し、大人気の作家パメラ・アレン (Pamela Allen, 1934-) もまた、かつては美術教師であった。響きの楽しい言葉で、次のページをめくりたくなるような展開の絵本を作るが、子どもと触れ合った経験が創作に生きている。

以上のように、ニュージーランドでは、子どもをよく知る作家たちを中心に、読む楽しさを味わうことができる児童文学が出版され、読み継がれている。

3. 国際子ども図書館の所蔵資料の評価、所見

平成 28 年 7 月 5 日現在、国際子ども図書館所属の資料のうち、出版地がオーストラリアの資料は 1147 冊、ニュージーランドの資料は 343 冊であった。両国における主要な児童文学賞を受賞した作品や日本にも紹介されている作家の作品は、すでに多くが収集されている。

今回、ウォントリストを作成するにあたって留意したのは、国という枠組みを越えて活躍する作家の存在である。両国は英語を公用語とする。そのため、出版市場がより大きなイギリスやアメリカの出版社から書籍を出版する作家も多い。

例えば、国際子ども図書館の所蔵する資料を、著者名マーガレット・マーヒー（Margaret Mahy）で検索すると、平成 28 年 7 月 5 日現在、82 冊の資料が該当した。そのうち日本語に翻訳された作品は 42 冊あった。英語による作品は 38 冊あり、そのうち、ニュージーランドで出版されたものが 10 冊、アメリカから出版されたものが 12 冊、イギリスから出版されたものが 14 冊、オーストラリアと日本で出版されたものが各 1 冊あった。つまり、出版地をニュージーランドに絞ってしまうと所蔵を発見できない作品がある。

また、ジーニー・ベイカーのように、イギリスとオーストラリア、二つの国で国籍を取得した作家もいる。ベイカーは、オーストラリアの自然をテーマと素材にした絵本を制作しており、オーストラリアの人々は、自国を代表する絵本作家として認識しているが、彼女の活動を詳しく知らない人は、オーストラリアとの関係性を見出せないだろう。

このようなことを踏まえて、今回のウォントリストを作成するにあたっては、国内外の主要な児童文学賞を受賞した作品、児童文学史上重要な作家の作品を中心に、1 作ずつ、また一人ずつ蔵書を検索して、収集の候補作を選定するよう努めた。

また、先に述べたような、オーストラリアおよびニュージーランドの特色が現れている児童書、すなわち、先住民族の文化を継承する作家の作品や両国の特色を反映した作品もリストに加えた。さらに、オーストラリアとニュージーランドの児童文学と子どもの読書に関する研究に資する研究書も取り上げた。

今回の調査が、オーストラリアやニュージーランドの児童書でありながら、そうは見なされてこなかった作品や作家の再認識と、両国の個性を反映した児童書とその関連書の収集や研究にわずかでも貢献できたら幸いである。

¹ ジオサイエンス・オーストラリア（Geoscience Australia）発表

<http://www.ga.gov.au/scientific-topics/national-location-information/dimensions/area-of-australia-states-and-territories>

² オーストラリア統計局（Australian Bureau of Statistics）が、2016 年 12 月に発表した同年 6 月実施、国勢調査。

<http://www.abs.gov.au/ausstats/abs@.nsf/mf/3101.0>

³ アン・ジェイムズ氏は、オーストラリア児童図書賞を何度も受賞した現役の絵本作家である。日本でも『マリーおばさんと 7 ひきのねこ』（ジェリ・クロル文、木本栄訳、講談社、2005）など、複数の作品が翻訳出版された。ジェイムズ氏は、18 年間小学校で司書を務め、オーストラリア児童図書評議会のメンバーとしても活躍してきたアン・ハドン氏と共に、1988 年に「ブック・イラストレイテッド」を開き、ショーン・タンなど、実力ある絵本作家の原画展を開催して注目を集めている。なお、両氏は、オーストラリアの児童文学への貢献を評価されて、2016 年にオーストラリア勲章（Member of the Order of Australia）を受けた。

「ブック・イラストレイテッド」<http://www.booksillustrated.com.au/>

⁴ 今回、英語圏の国以外からの移民が多く暮らすダンデノン図書館を訪問したのは、多民族多文化主義を掲げるオーストラリアにおける児童書と公立図書館の実際の姿と役割を知るためであった。

⁵ 「ザ リトル ブックルーム」は、1960 年にアルバート・ウリン（Albert Ullin）が開店した児童書専門書店である。店名はエリナ・ファージョン（Eleanor Farjeon）の作品に由来する。半世紀以上のあいだ、児童書を愛好する大人や子どもに信頼を寄せられてきた。現在は、読み聞かせ会や作家や画家を招いたイベントも行い、児童書に関わる情報発信の場ともなっている。

「ザ リトル ブックルーム」<https://www.littlebookroom.com.au/>

⁶ 「ブッシュ」は、オーストラリアの未開拓の野山、あるいは郊外の自然に囲まれた土地を指す。かつてヨーロッパから入植した人々にとっては、神秘的な場であり、制御できない野生の象徴でもあった。

⁷ オーストラリア児童図書賞は、1946 年創設の、オーストラリアで長い歴史をもつ権威ある児童図書賞である。前年にオーストラリアで出版された、オーストラリア国籍をもつ作家、またはオーストラリア在住の作家による、18 歳未満向けの英語、もしくは英語を含む 2 か国で書かれた児童書のなかで、文学性と芸術性に最も優れた作品に贈られる。オーストラリア児童図書評議会（Children's Book Council of Australia）が主催する。

「オーストラリア児童図書賞」<http://cbca.org.au/book-of-the-year>

⁸ オーストラリア児童図書連盟は、オーストラリアに暮らす子どもや若者たちに、人生における読者の有用性を伝えるために 2008 年に設立された、非営利の団体である。

⁹ 2008 年に、オーストラリア児童図書連盟が任命を始めたチルドレンズ・ローリエットは、オーストラリアの子どもや若者に読書、創造、物語が人生において大きな意味をもつことを伝えるための活動を行う。2 年毎に選出され、2012-13 年はアリソン・レスター（Alison Lester, 1952-）とポーリー・モンティ・プライヤー（Boori Monty Pryor, 1950-）が、2014-15 年はジャッキー・フレンチが選ばれている。ホップズは 3 代目である。

「チルドレンズ・ローリエット」<http://www.childrenslaureate.org.au/>

¹⁰ オーストラリア児童図書評議会は、1945 年に組織された、オーストラリアにおける児童書の振興と、児童書に関わる活動を支援する非営利の団体である。

「オーストラリア児童図書評議会」<http://cbca.org.au/>

¹¹ ビクトリア州立図書館（State Library of Victoria）内にも店舗を構える書店「リーディングス（Readings）」による、「リーディングス児童文学賞（The Readings Children's Book Prize）」などがあ

る。<https://www.readings.com.au/the-readings-children-s-book-prize>

¹² 例えば、下記がある。

スコラスティック (Scholastic) が公開するジャッキー・フレンチ作、『ヒットラーのむすめ』(*Hitler's Daughter*) の指導案

<https://beta.scholastic.com/teachers/lesson-plans/teaching-content/hitlers-daughter-extension-activity>
Education Services Australia が公開するデイビッド・ミラー (David Miller, 1943-) 作、*Refugees* の指導案

<http://www1.curriculum.edu.au/rel/values/book.php?catrelid=1495>

¹³ 下記のように、オーストラリア作家協会などの団体や出版社などが、作家や画家への依頼を取りまとめたり、作家が自身のホームページで依頼を受けたりしている。

オーストラリア作家協会 ホームページ <https://www.asauthors.org/reading-australia-bookpros>

アリソン・レスター ホームページ http://alisonlester.com/pages/artist-bookings_

¹⁴ ストーリー・ボックス・ライブラリーは、オーストラリアで活躍する作家やイラストレーター、俳優やスポーツ選手などがオーストラリアの児童書を読み聞かせる映像を配信し、子どもたちに読者の楽しみを伝える有料サイトである。また、家庭や学校で児童書を楽しみ、活用するための資料も公開している。

「ストーリー・ボックス・ライブラリー」<https://storyboxlibrary.com.au/>

¹⁵ 日本外務省ホームページ (2016 年 12 月 26 日更新) 掲載ニュージーランド基礎データ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nz/data.html>

¹⁶ ニュージーランド統計局 (Statistics New Zealand) が 2013 年 10 月に発表した、同年 3 月実施の国勢調査

http://www.stats.govt.nz/browse_for_stats/population/census_counts/2013censususuallyresidentpopulationcounts_hotp2013census.aspx

¹⁷ 同上の 2013 年 3 月実施の国勢調査では、マオリ民族であると答えた人は 598,605 人であった。なお、マオリの子孫であると答えた人は、668,724 人いた。

<http://www.stats.govt.nz/census/2013-census/profile-and-summary-reports/quickstats-about-maori-english.aspx#>

¹⁸ 日本外務省ホームページ (2016 年 12 月 26 日更新) 掲載ニュージーランド基礎データ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nz/data.html>

¹⁹ 「野間国際絵本原画コンクール」http://www.accu.or.jp/noma/japanese/j_index.html

²⁰ スクール・ジャーナルは、1907 年に政府が刊行を始めた冊子形式の読み物で、教科書の副読本として使われている。内容は物語、詩、戯曲など多彩であり、100 年以上の歴史のなかで、多くの作家や画家を輩出してきた。